

### 1.3. 新潟県におけるてんかん診療連携—西新潟中央病院—（2022年）

国立病院機構西新潟中央病院副院長 遠山 潤  
 国立病院機構西新潟中央病院神経部長 福多真史

まとめ

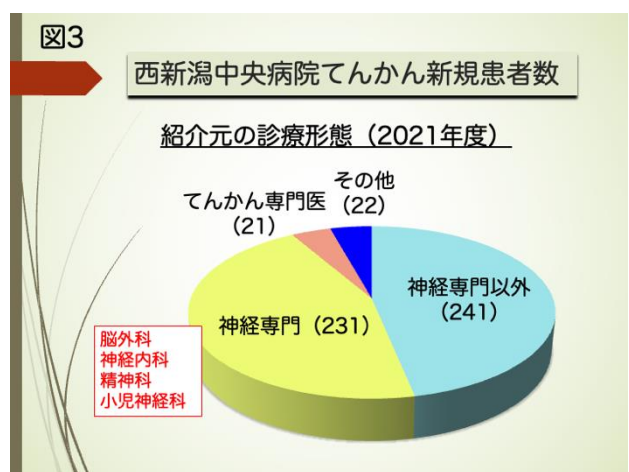
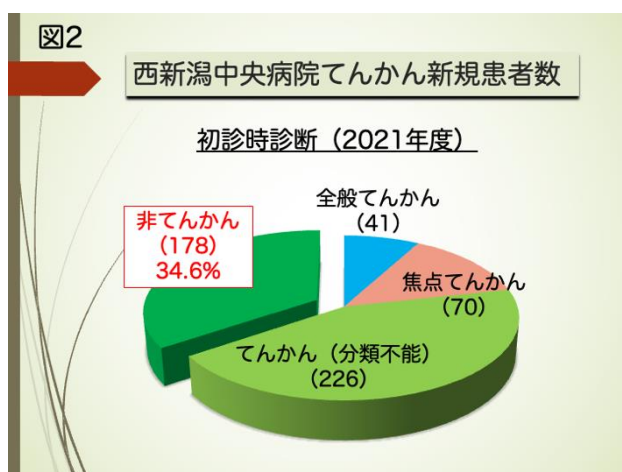
- 2021年度の西新潟中央病院の診療実績は、COVID-19のパンデミックの影響による受診控えからやや回復傾向が認められ、新規患者数や手術件数の増加があった。
- 今後、COVID-19のパンデミックが収束した後も、Webを用いての啓発活動、教育活動、各病院との連携が重要になってくるものと思われる。

#### 1. 診療実績

現在当院のてんかんセンターは、2022年度4月からは小児神経科医7名（てんかん専門医2名）、精神科医1名（てんかん専門医）、脳神経外科医6名（てんかん専門医4名）、脳神経内科医1名の15名で診療を行っている。てんかんの診療機器としては、1.5テスラMRI、SPECT、MEG、ビデオ脳波記録5台などで、例年と変わりはない。

2021年度のてんかん新規患者数は、2020年度の患者数（2015年度からの統計で過去最低）からは回復傾向であり、515名と増加した。COVID-19の感染の波がまだいくつか繰り返されていた状況だったが、受診控えは少しずつ改善している（図1）。

2021年度の初診時診断では、例年と比較してその割合に著変はなく、2021年度の非てんかん症例は178名（34.6%）で、これも例年とほぼ同様の割合だった（図2）。



紹介元の診療形態は神経専門医（脳外科、脳神経内科、精神科、小児神経科など）とそれ

以外に分けたが、ほぼ同様の割合であった。(図3)。てんかん専門医からのご紹介の患者数もほぼ例年通りだった。

紹介元の地域は新潟市が303名(58.8%)、新潟県全体では482名(93.6%)で、割合としては、例年80%台後半だったので、やや多い傾向が認められた。COVID-19のパンデミックにより、2020年度は0だった東京からは8名の紹介があった一方、群馬県、山形県からは例年数名の紹介があったが、2021年度は0であった(図4)。新潟県内の患者数の割合が高かったことから、まだCOVID-19の感染状況の影響が残っていて、県をまたぐ受診を控えていた可能性が示唆された。

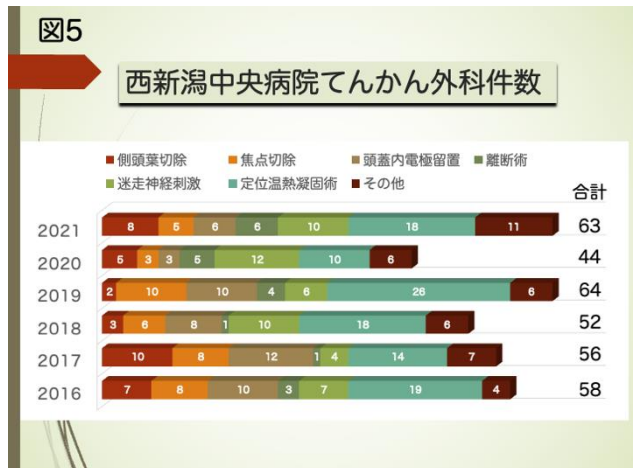
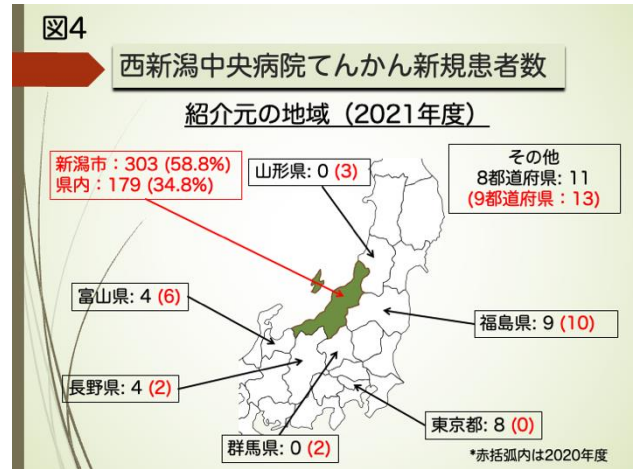
2021年1月から12月までの当院でのてんかん外科の手術件数は63件で、2020年の44件から20件近く増加した。海外や県外からの視床下部過誤腫に対する定位温熱凝固の症例数がもとに戻ってきたことと、その他の手術についても例年通りの件数に回復したためと思われた。(図5)。

## 2. 教育・啓発活動

研修活動は、保健師向けの研修会を行うことができなかったが、検査技師研修会、専門職のための研修会、医師向けのてんかんセミナー、看護師研究会をWebにて開催した。検査技師研修会では2019年度の現地開催時には27名の参加者だったが、今年度のweb開催では381名と10倍以上の方に視聴していただいた。専門職のための研修会は2019年度の現地で70名、今年度のweb開催で73名と変わりはないが、医師向けのてんかん夏季セミナーでは20名から115名、看護師研修会では17名から632名と、参加人数が大幅に増加した。2022年3月1日から14日まで、市民てんかん講演会をオンデマンドで開催したが、2019年度の現地開催の人数が79名だったのに対して、173回の視聴記録があった。COVID-19のパンデミックが収束しても、研修セミナーの場合は、Web開催の方が多くの参加者が得られることが実証されたので、しばらくこの形態で、教育・啓発活動を行っていく予定である。

## 3. 新潟大学および地域の基幹病院との診療連携

2015年10月から新潟大学脳神経外科との診療連携がはじまり、高磁場MRI(3テスラ、あるいは研究用の7テスラ)、高密度脳波計検査、FDG-PET検査などを大学に依頼して、てんかん外科の術前評価を行っている。とくに3テスラMRIとFDG-PETは焦点てんかんにお



いての有用なモダリティで、近年検査を依頼する件数が増加している。さらには脳研究所統合機能センターの 7 テスラ MRI を用いたてんかんの画像研究にも取り組んでいく予定である。

新潟県の他の地域との連携に関しては、県北部の県立新発田病院、中越地区の長岡赤十字病院、魚沼基幹病院、上越地区の県立中央病院などを地域の基幹病院として、今後さらなるてんかん診療連携の強化をはかる予定である。

#### 4. 今後の課題と改善点

新潟県内において、各地域の基幹病院とのてんかん診療連携強化のために、窓口となる医師、あるいは事務担当を決めて、患者の紹介、逆紹介をより円滑に進むようなシステムの構築を検討する。また隣県、とくに山形県の日本海側、福島県会津地方、富山県、長野県北部については新潟県内の各地域の基幹病院、あるいは当院へのアクセスもそれほど悪くないので、てんかんの治療難民が出ないように、Web による市民向け、医師向けに積極的にてんかん診療の啓発活動を行う。

##### \* てんかん治療連携協議会委員

新潟県福祉保健部障害福祉課長 島田久幸

新潟県精神保健福祉センター所長 阿部俊幸

新潟大学脳神経外科助教 平石哲也

日本てんかん協会新潟県支部代表 矢部日出海

西新潟中央病院副院長 遠山潤

西新潟中央病院てんかんセンター長 福多真史